

リーダーシップと協調性

リーダーとは何か。人々を率いるとはどういうことか。大学に入学して以来、この問題について考えることがある。私の通う大学の憲章において、「世界的視野を持った市民的エリート」を育成することが、大学が社会から負託された使命であると述べられている。このエリートとは、自らの秀でた能力を生かし、リーダー的役割を担う人材である。また、他の多くの大学でもリーダーシップの発揮できる人材育成を目標としている。すなわち、我々は大学及び社会からリーダーにふさわしい素質を養うことを求められている。

大学に入学後、リーダー像について実際に私が悩まされたのは、2 年前に所属サークルでリーダー的役職を務めたときである。当初はメンバーの仲も良く多くの人が活動に参加していたが、次第に活動が単調になり参加者が減っていった。人数が減ると参加者のモチベーションが高まらずなかなか楽しむことができない。効果的な対策を実行できなかった結果、人数は回復せず、皆を信頼できなくなった私は何でも自分でやろうとし、周囲の仲間に協力を求めることを諦めてしまった。リーダーとして最後の仕事である学祭での企画運営では、準備から当日の仕事までほぼ独力で進めたため、私自身はあまり楽しめなかったし、他のメンバーが企画を満喫できたか分からなかった。

この失敗の原因は、私が周囲への信頼を一方的に失い仲間に協力を仰ぐことなく、リーダーとして全て自分で完遂せねばならないと思い込んだことにあるだろう。もっと思考すれば、もっと皆と向き合っていれば、全員が参加して楽しめるサークル運営ができていたかもしれない。「仲間を信じる」「仲間と協力する」一見当たり前に思われることだが、これらの重要性を身をもって体験できた良い経験であった。

今後社会に出て企業に就職したりすれば、サークルよりも大規模な集団を率いたり、より重大な責任を伴って指導したりする場面が訪れるだろう。その際には、この経験から学んだ教訓を生かし、協調性に軸をおいたリーダーシップを発揮できるよう最善を尽くしたい。